

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成24年度 第6回理事会 議事録

日 時: 平成24年7月11日(水) 14:00~15:30

場 所: JBAオフィス 8F会議室

出席: <理事>

麻生太郎会長、深津泰彦、丸尾充、梅野哲雄の各副会長、樋口隆之専務理事、伊藤信明、大神訓章、大山妙子、熊谷秀樹、坂本昌彦、佐々木三男、品田奥義、庄司義明、鈴木秀太、高橋雅弘、田窪徹、野村俊郎、原田茂、堀井幹也、水谷豊、吉田長寿の各理事

<監事>

高原洋太郎、松岡憲四郎の各監事

<特任委員>

片山正明、林直樹、西井歳晴の各特任委員

欠席: 佐古賢一、福井晴次、吉田利治の各理事、山崎均監事、内山英司、上島正光の各特任委員

議 題

- (1) 議事録について
- (2) 委員会の設置および担当職務について
- (3) 外部派遣役員について
- (4) 顧問および参与について
- (5) 評議員選定委員会について
- (6) 基本規程(案)の検討会議について
- (7) 規程の制定について
- (8) 男子強化関係について
- (9) ボールの検定について
- (10) 大会要項について
- (11) 新リーグのリーグ名称・ロゴについて

1. 定足数の報告

堀井理事より出席者数の報告があり、定款32条に基づき、理事現在数(24名)の過半数の出席数(出席:20名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

2. 挨拶

麻生会長より開会の挨拶があった。

3. 議事

定款に基づき、議長は会長が務め、会長の指名により深津副会長が会議の進行を行った。

(1) 議事録について（深津副会長）

6月13日開催の第4回理事会、6月23日開催の第5回理事会および臨時理事会の議事録が承認された。

＜承認＞

(2) 委員会の設置および担当職務について（樋口専務理事）

本議案の前に樋口専務理事から今後の組織運営についての考え方として次の点が述べられた。

○公益法人移行に伴って、これまで整備されていなかった基本規程などを策定し、また、組織の役割を明確にして、更なるバスケットボールの普及、育成、強化に努めていくこと

○事務局をオフィス化し、機能化して業務を推進していくこと

○日本協会と都道府県協会、各種連盟、リーグ、公認団体などバスケットボール界全体と一体となった取り組みが必要であること

また、公益法人化に伴い、理事会はこれまで以上に執行機能が求められていることから、「役員間での連携強化を図るため、強化、育成等について共通認識に立つための勉強会も行っていきたい」「理事会での議案提出、報告に際しては、問題、課題の共有化、新任の方もいるため丁寧な説明、事前調整を心掛けるようお願いしたい、また同時に理事会においての活発な意見をお願いしたい」との話があった。

次に、本議案について、業務執行体制を構築するにあたり、①コンパクトな体制とする、②業務を迅速に遂行する、③オフィス機能を充実し、活用する、を基本として考え、以前は理事会のもとに専門部会があり、事務局があったが、新しい体制においては理事会に対して専門委員会、特別委員会を設置し、オフィスとも連携しながら円滑に運営していきたいとの説明があり、各種専門委員会および特別委員会の設置および各委員長が提案された。また、新たな組織体制となるため、加盟団体他関係団体に対し、順次周知を図っていきたいということ、各委員会は所管事項を遂行するために委員長が委員を任命し、委員会組織については理事会に報告をすることおよび各委員会はオフィスと連携をとりながら業務を進めていくをお願いしたいということが述べられた。役員の担当職務については、各委員長としての業務のほか、大神理事はナショナル・テクニカル担当、水谷理事は国際担当、大山理事は広報担当、熊谷理事は国体担当、福井理事および片山特任委員は普及・登録推進担当として役割を担っていただくこと、役員歴も長く、経験豊富である伊藤理事および原田理事については大所高所から全般的にご意見をいただくこと、また、西井特任委員および林特任委員については日本協会との密接な関係を持ってリーグ、連盟の運営を行っていただくこと、さらに各ブロック推薦の役員については、それぞれのブロックとの連携、コミュニケーションも同時に担っていただくことが提案され、全て原案通り承認された。

尚、この組織構成、委員会の役割・業務範囲について、これまでの組織とは大きく改編されており今回の説明や資料だけでは十分に理解できないとの指摘があり、今後各委員長と専務理事で十分に調整を行うとともに、更に細則を整備するなどして、対処することとした。

	委員会名	委員長名
専 門 委 員 会	総務委員会	堀井 幹也
	競技会委員会	庄司 義明
	規律・プレイクリーン委員会	品田 奥義
	審判委員会	吉田 利治
	ナショナル委員会	男子:佐古 賢一／女子:高橋 雅弘
	テクニカル委員会	佐々木 三男
	スポーツ医科学委員会	内山 英司
	施設・用具委員会	堀井 幹也
	障がい者バスケットボール委員会	樋口 隆之(暫定)
特 別 委 員 会	審判審査委員会	田窪 徹
	国体委員会	野村 俊郎
	コンプライアンス委員会(仮称)	堀井 幹也
	国内競技日程検討委員会	吉田 長寿
	普及・登録推進委員会	坂本 昌彦
	環境委員会	堀井 幹也

<承認>

(3) 外部派遣役員について (堀井理事)

役員改選に伴い、日体協、JOC他関係諸団体への派遣役員の選定について提案され、原案通り承認された。尚、現行の派遣役員との変更時期については、派遣先団体での手続き等が必要なことからそれにあわせて順次行っていくこともあわせて承認された。

<承認>

(4) 顧問および参与について (堀井理事)

役員改選に伴い、退任された理事、監事、特任委員の処遇について、伊藤善文前副会長を顧問に、臼井秀明前理事、大滝和雄前理事、夏目敏前理事、萩原伸浩前理事、橋本信雄前理事、植田滋前監事、阿部達也前特任委員、小倉恭志前特任委員、手塚純前特任委員、三木英之前特任委員を参与に推薦することが提案され、承認された。尚、定款第28条に基づき、顧問および参与の推薦には理事会および評議員の推薦が必要となるが、6月23日に開催された定時評議員会にて、退任役員の参与職等への推薦については理事会に一任することが承認されているため、本理事会での推薦をもって会長が顧問および参与への委嘱を行うこととなった。

<承認>

(5) 評議員選定委員会について (樋口専務理事)

6月13日に承認された「評議員選定委員会運営規則」について、一部表記の訂正等を行った修正案が提案され、原案通り承認された。

また、評議員選定委員会の委員として、定款第11条に基づいて評議員から島澤司氏(岐阜県協会)、監事

から高原洋太郎氏、事務局から長谷川洸世氏、外部委員として金井克仁氏(弁護士)、望月浩一郎氏(弁護士)の5名が推薦され、承認された。

<承認>

(6) 基本規程(案)の検討会議について (堀井理事)

定時評議員会において審議見送りとなった基本規程について、9ブロックからの代表者等を含めた検討会議を開催すること、また今後の進め方が提案され、原案通り承認された。

また、関連して、今回の役員改選にあたり、役員候補者選定の協議の中で評議員からの強い要望を受けて加えることになったブロック代表者の役割のほうに議論が集中し、9連盟との調整が十分でないままに提案をまとめることとなり、結果として中学生連盟からの代表者が選出できていないことについて、深津副会長および樋口専務理事から深い陳謝があった。これについては、現状の基本規程(案)で定めている特任委員の定数「5名以内」という部分を上記の検討会議で協議の上、評議員会の承諾を得て「7名以内」に変更し、特任委員に加える方向で進めていくこととなった。

<承認>

(7) 規程の制定について (堀井理事)

財団法人時代に制定した、個人情報保護法に関連する「個人情報保護コンプライアンス・プログラム」、「個人情報保護方針」、「個人情報保護規程」、「個人情報の保護に関する監査規程」、「個人情報の取扱いに関する外部委託管理規程」および公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が作成した雛形をもとに制定した「ドーピング防止規程」について、公益財団法人移行に伴い、文言(表記)を整理したものが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(8) 男子強化関係について (鈴木理事)

① 第22回FIBA ASIA男子U-18バスケットボール選手権大会

8月17日から26日にモンゴル・ウランバートル行われる「第22回FIBA ASIA男子U-18バスケットボール選手権大会」に派遣する日本代表チームについて、スタッフ8名、選手12名が承認された。

② 第20回日・韓・中ジュニア交流競技会

8月24日から28日に韓国・光州広域市にて行われる「第20回日・韓・中ジュニア交流競技会」について、男子は前述のFIBA ASIAの大会と日程が重なることから、U-18カテゴリーにおいて別にチーム編成を行い、スタッフ6名、選手12名を派遣することが承認された。尚、チームリーダーについては現在調整中であるため、決定次第報告することとなった。

また、女子については、「第2回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会」と日程が重なり、チーム編成が難しいことから、派遣選手団の選出を高体連に依頼し、その結果、埼玉県国体少年女子チームを派遣することになったことが報告された。

③ 第34回ウィリアム・ジョーンズカップ

8月18日から26日にチャイニーズ・タイペイで行われる「第34回ウィリアム・ジョーンズカップ(男子)」に派遣する日本代表のスタッフ12名、選手15名が承認された。

④ FIBA ASIAカップ2012

9月14日から22日に東京都大田区で行われる「FIBA ASIAカップ2012」の日本代表スタッフおよび選手の選考について、8月に選考を行う予定であるが、8月は理事会の開催がないためナショナル委員会に一任することが承認された。尚、8月7日に常務理事会が予定されているため、それまでに選考を行う方向で進めることが補足された。

<承認>

(9) ボールの検定について（堀井理事）

株式会社ナイキジャパンおよびスポルディング株式会社より新たなボールの検定申請があり、検定基準を満たしていることが報告され、検定球として認定することが承認された。

<承認>

(10) 大会要項について（庄司理事）

本年度に開催する次の2大会の大会要項が提案され、原案通り承認された。

・「東日本大震災」被災地復興支援

第43回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会 ウインターカップ2012

・「東日本大震災」被災地復興支援

第88回天皇杯・第79回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会(オールジャパン)

尚、ウインターカップについては、既に理事会でも報告の通り、東京体育館の改修工事のため広島県立総合体育館(広島グリーンアリーナ)で開催されることが補足された。

また、オールジャパンの男子の参加チームのうち、bjリーグの枠数については、今回の提案内容では、前回の要項を踏襲して2チームの枠を設けているが、前回実績は1チームしか参加しなかったこともあり、bjリーグと折衝した上で、改めて提案されることとなった。

<承認>

(11) 新リーグのリーグ名称・ロゴについて（丸尾副会長）

2013年よりスタートする新リーグ(Aリーグ・Bリーグ)について、今秋始まる既存リーグをプロモーション活動として活用していきたいこと、また、そのためにはリーグ名称およびロゴを8月中旬から下旬には決定する必要があることが説明された。これについて、8月は理事会の開催が予定されていないため、リーグ名称およびロゴの決定に関しては参加チームおよび新リーグ運営本部に一任することが承認された。

<承認>

4. 報告事項

(1) 一般報告（堀井理事）

2012年5月の諸会議等の開催実績が報告された。

(2) 総務部（堀井理事）

9月の理事会は20日を予定しており、当日は理事会後にFIBA ASIAカップの観戦も予定していること、また、10月の理事会開催にあわせ、樋口専務理事からも述べられた通り、役員としての共通認識をもち、問題

点、課題の共有化するための研修会および懇親会を予定していることが報告された。

また、6月26日から27日に会計検査院による各種助成金の実地検査があり、その中で書類の保管不備の指摘を受けたこと、謝金等の支払いについて、一部二重払いの可能性があると現在詳細を確認中であることが報告された。尚、いずれも不正事案等ではなく、見解の相違、事務処理の問題であり、詳細は精査していくこと、また、今後は管理体制の改善を図っていききたい旨が述べられた。

(3) 事業戦略部 (吉田理事)

FIBA ASIAカップ2012の開催にあたり、ハゴップ・カジリアンFIBA ASIA事務総長が来日し、運営に関する打合せおよび抽選会が行われたことが報告された。(抽選の結果は次の通り)

グループA: 中国、(中央アジアサブゾーン代表)、(東南アジアサブゾーン代表)、レバノン、マカオ

グループB: イラン、チャイニーズ・タイペイ、(南アジアサブゾーン代表)、カタール、日本

※中央アジア、東南アジア、南アジアの出場国は未定。

(4) 競技会関係 (庄司理事)

「大田区総合体育館 開館記念事業 ゼビオチャレンジ バスケットボール男子日本代表戦」、「FIBA女子オリンピック世界最終予選」の大会結果および「第65回全国高等学校バスケットボール選手権大会 (インターハイ)」「第50回男子第42回女子 全日本教員バスケットボール選手権大会」の組合せ等が報告された。

(5) 審判関係 (鈴木理事)

今後の海外派遣等の予定、また、9月に行われるFIBA ASIAレフリークリニックにおいて、新規受検者として4名を推薦することが報告された。

(6) ナショナル・テクニカル関係 (鈴木理事)

各委員会の組織について、ナショナル委員会は男女ともナショナル部門や各アンダーカテゴリー部門の代表者を中心に組織してその下に分科会として日本代表グループ、ジュニア日本代表グループを構成し、また、テクニカル委員会は、コーチコミッティーグループとエンデバーグループを構成して活動を行っていく予定であることが報告された。

(7) 女子ナショナル関係 (高橋理事)

トルコ・アンカラで行われたオリンピック世界最終予選の結果、オリンピック出場決定戦でチェコに破れ、最後の一つの枠を懸けたカナダ戦にも破れ、非常に残念な結果で終わってしまったことが報告された。また、この大会までの強化活動を含めた総括を次回理事会にて行うこと、リオ・デ・ジャネイロオリンピックに向けた強化体制の構築に早急に着手したい旨が報告された。

(8) テクニカル関係 (佐々木理事)

今年度の岐阜国体での監督資格について、都道府県協会に対して通知を行ったことが報告された。

また、昨年度から男子強化部、育成部、医科学研究部の3部合同で進めているジュニアエリートアカデミー(ビッグマン)について、23名が候補選手となり、心エコー検査を行って医学的な判断をし、最終の参加選手を決定する予定であることが報告された。

(9) **東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会**（樋口専務理事）

7月6日に「2020年オリンピック・パラリンピック招致に向けた競技団体連絡会」が行われ、大会立候補都市の選定結果、今後の招致スケジュール等について説明があったことが報告された。また、各競技団体に対して、招致活動の告知、IOC委員への働きかけについて協力依頼があったことが報告された。

以上